

平成 29 年 10 月 20 日

第 1 回 定常観測点検討ワーキンググループ 報告

平成 29 年 10 月 20 日（金） 10:30-12:45 東大地震研事務会議室 B

出席者：高橋浩晃（北大）・小菅正裕（弘前大）・松澤暢（東北大）・酒井慎一（東大地震研）・山中佳子（名大）・片尾浩（京大防災研）・山品匡史（高知大，大久保慎人委員代理）・松島健（九大）・八木原寛（鹿児島大）・尾崎友亮（気象庁）・浅野陽一（防災科研）・今西和俊（産総研）

オブザーバ：平野雅樹，東野陽子（文科省地震・防災研究課）

事務局：加藤尚之（企画部）

【議事概要】

- 互選により，高橋委員を主査に選出した。また，主査から，主査代理として小菅委員が指名された。
- 各大学・機関の基盤観測（主に微小地震）について現状を報告
- 特に大学では運営費交付金・人員の大幅な削減が継続しており，定常観測点の維持は非常に困難な状況。他機関においても予算削減が継続している。
- 基盤観測網の機能（観測点間隔）維持に向け各機関で出来る限り努力するが，今後，更なる予算・人員削減が進むため，予知協や関係機関での組織的な対応が必要
- 複数の大学から，以下の事由で止むを得ず休止・廃止する（した）観測点が報告された
 1. 観測点維持の安全やインフラが確保できない（アクセス道路の消失等で観測員の安全が確保できない，自然災害による通信インフラ等の大規模障害，等）
 2. 近傍に他機関の基盤観測点（気象庁・Hi-net）が整備された
 3. 保守旅費・回線料・電気料等の予算や観測人員の確保が出来なくなったこのうち，
 - ・ 1. は，外的要因によるものであり，観測員の安全確保が第一であることから，各機関の判断で廃止も止むを得ないと考える
 - ・ 2. は，基盤観測網の機能維持が確認されれば，問題ないと考える
 - ・ 3. は，各機関の止むを得ない事情によるものであるが，将来，何らかの対応が検討される可能性もあるため，できる限り休止観測点とすることが望ましい
- 松島委員から，「400MHz 帯無線周波数の有効利用についての意見交換会」に関する情報提供があった。

【今後の考え方・進め方】

- 基盤観測点の改廃は、地震調査研究に多大な影響を及ぼす可能性がある。各機関で休廃止の予定がある場合には、事前に本 WG において情報共有を行う。また、協議会での対応・対策の検討を WG から要望するほか、協議会から地震本部への報告も検討する。
- 定常観測を安定的に維持していく観点から、観測点・観測網の運用や、休止観測点の扱いについて、本 WG を年 1 回程度開催し、検討を行う。
- 地震・火山噴火予知計画で大学に割り当てられている無線局の運用や、衛星テレメータの新規格対応等についても、本 WG で情報共有を行う。